

# 泉の成開

郡山女子大学図書館報 第14号 平成20年6月



復元された慧日寺金堂  
(2008年4月26日撮影)

題字 郡山女子大学学長 関口富左

## 目次

慧日寺訪問記	
郡山女子大学図書館司書係長 和知 剛	・・・2
図書館のお知らせ	・・・4

## 慧日寺訪問記

郡山女子大学図書館  
司書係長 和知 剛

去る2008年4月25日より復元された慧日寺金堂が一般公開され、早速翌26日に訪ねて来ました。さすがに新造間もない建築はまぶしいばかりの朱の柱と、にぶい光を放つ真新しい橡葺(とちぶき)の屋根が、鮮やかな対照を見せていました。

慧日寺(えにちじ)は平安時代初期の法相宗(南都六宗の一)の高僧・徳一(とくいつ、生没年未詳)によって、現在の福島県耶麻郡磐梯町に開かれたという古刹です。会津五薬師のひとつ(東方薬師)とも伝えられます。また徳一は他にも勝常寺(福島県河沼郡湯川村)、赤井嶽薬師(福島県いわき市)、筑波山中禅寺(現在の筑波山大御堂、茨城県つくば市)などを開き、常陸国から会津地方にかけて独自の仏教集団を率いて活動しました。徳一は天台宗を開いた最澄、真言宗を開いた空海と仏教の根本奥義について論争した(特に最澄とは激的な論争を展開した)ことでも知られる、篤学の高僧です。この徳一の活動の裏には、徳一が仏教を学んだと伝えられる奈良興福寺を氏寺とする藤原氏一族が存在したらしいことが、『会



慧日寺復元金堂

津若松市史』第2巻で指摘されています。

徳一所縁の寺院の中でも慧日寺は、『新編会津風土記』に「子院三千八百坊」を謳われ、「絹本着色慧日寺絵図」(福島県指定重要文化財)に見られるような壮大な伽藍を誇る大寺院でしたが、源平の争乱、戦国の乱世、明治維新時の廃仏毀釈という3度の打撃を受けて廃寺となります。その後、地域の復興運動が実を結んで「恵日寺」として明治37(1904)年再興されます。



講堂・食堂跡(平面復元)

「絹本着色慧日寺絵図」に描かれた中心伽藍(本寺地区)は、その後長らく埋もれてしまい跡地には磐梯神社が鎮座していましたが、昭和45(1970)年に慧日寺跡が国指定史跡となり、昭和60年に史跡の本格的な調査・保存・整備事業が始まったことに伴い、磐梯神社はより北方の高台に移転します。中心伽藍は平成15年度・16年度の整備により、礎石等を表示した平面整備が行われますが、なお金堂・中門については古代寺院の様式に基づく復元整備がすすめられ、このたび金堂の復元・公開に至ったものです。

慧日寺は郡山から会津方面へ自動車でも40分ほどの、自然豊かな地にあります。1000年以上前に暮らした人々の信仰に思いを馳せ、中央から遙か隔たった会津の地にて、当時の最高の知性の持ち主たちと交通の便の悪さも省みず互角の論争を繰り広げた、博覧強記の篤学の高僧がいたことに、復元された金堂の前でしばし感慨にひたるひときは、ひょっとすると学生時代にしか持てない至福の時間かもしれません。



慧日寺徳一廟

(本稿の写真はすべて筆者撮影)



三重塔（五間四間堂）跡（平面復元）



平成14年、整備途上時の金堂跡

#### 当館所蔵の慧日寺および徳一に関する文献一覧(本稿執筆の際、参考にしたもの)

- 『徳一と恵日寺』ふくしま文庫 高橋富雄著，FCT企業，1975，090||Fu||1-17  
 『徳一菩薩』[第一集] 歴春ふくしま文庫 高橋富雄著，歴史春秋出版，2000，090||RE||1-52  
 『徳一菩薩』第二集 歴春ふくしま文庫 高橋富雄著，歴史春秋出版，2000，090||RE||1-52(2)  
 『検証徳一菩薩道』高橋富雄東北学論集：地方からの日本学 高橋富雄著，歴史春秋出版，2005/11，  
 212||Ta||1-17  
 『合本徳一菩薩道』高橋富雄東北学論集：地方からの日本学 高橋富雄著，歴史春秋出版，2006/04，  
 212||Ta||1-18  
 『会津、古代そして中世 会津嶺の国から武士の支配へ』会津若松市史；2．歴史編；2．古代；2・中世；1 会津若松市総務部秘書広聴課市史編さん担当，会津若松市史研究会編，会津若松市，  
 2005/03，  
 212.6||A||2-2

#### 慧日寺金堂復元に関するweb記事

- 磐梯町～甦る古代金堂～ 慧日寺金堂の復元  
[http://www1.town.bandai.fukushima.jp/kanko/enichiji/restoration\\_01.htm](http://www1.town.bandai.fukushima.jp/kanko/enichiji/restoration_01.htm)  
 福島民報 | よみがえる慧日寺金堂  
<http://www.minpo.jp/enichiji2008.html>

# 図書館のお知らせ

## 新たな電子ジャーナルの提供について

当館では次の雑誌について、平成20年4月より順次電子ジャーナルに切り替えて提供しています。一部を除き、IPアドレス接続ですので、学内LANに接続した端末から閲覧することが可能です。

図書館ホームページからリンクしておりますのでご利用ください。

- American Journal of Clinical Nutrition
- British Journal of Nutrition
- Journal of American Dietetic Association
- Journal of Biological Chemistry
- Journal of Food Science
- Journal of Nutrition
- Textile Research Journal

## 図書館ホームページの機能追加について

図書館ホームページでは従来よりお知らせ、当館の蔵書検索(OPAC)などを提供しておりますが、4月からリンク集にあるサイトでRSSにより記事を配信しているサイトについて、図書館ホームページのトップページにてその記事へのリンクを提供しております。

また、新たな形式によるパスファインダー(ある主題における文献情報)の提供について、本年10月稼働を目指しております。ご利用よろしく申し上げます。

### 編集後記

図書館報第14号をお届けします。  
ご意見、感想などありましたら遠慮なくお知らせください。

(W)

郡山女子大学図書館報(開成の泉)第14号  
平成20(2008)年6月29日発行

編集: 郡山女子大学図書館報編集委員会

発行: 郡山女子大学図書館

<http://library.koriyama-kgc.ac.jp>